

授業参観、ありがとうございました

4日(土)の学習参観には、ご多用にもかかわらず、多くの皆様に子ども達の学ぶ姿をご参観いただき、誠にありがとうございました。子ども達もワクワクした気持ちでいっぱい学習時間だったことと思います。保護者の皆様の温かな目線は、子どもたちにとって何よりの励みになったに違いありません。ありがとうございました。



さて、次の参観は、今月26日(日)の「運動会」になります。「運動会」当日も何卒、ご参会のうえ、子ども達へのご声援をよろしくお願い致します。

感じたことから

〇こどもの目線

我が家の家族に一匹の猫がいます。茶トラの雄ですが、まあ、これが可愛いのです。まさしく“猫っ可愛がり”状態です。朝、家を出る時は、玄関まで来て「みゃー！」の一鳴き。自分勝手に「行ってらっしゃい！」と言っていると思い込み、「行ってきます！」と頭を撫でて返しています。夕方、家に帰ると、また玄関まで来て「みゃー！」。これは「お帰りなさい！」に違いありません。ただ、グースカ寝ているときは、この挨拶はありません。ちょっと寂しい。



さて、この猫君ですが、先日、手足とお腹を床に付つけてつまらなそうに一点をジューと見つめているのです。さてさて、何を見つめているのかと思い、その隣に並んで自分も同じポーズで四つん這いになり、同じ方向を見てみました。何を見つめているかはさっぱりわかりませんでしたが、猫が見ている世界がちょっとだけわかりました。『この仔が見ている世界は、床すれすれの低い位置からこのように見えているのだなあ……』と、しみじみ感じていました。いつも、この仔を上から見下ろすばかりで、どういう目線で生活しているかなど、考えようともしていませんでした。すると、突然、この猫君、私に頭と頬を摺り寄せてきたのです。『おい、おめえ、おいらが見ている世界を分かってくれたか?』と言っているやらないやら……。でも、とても嬉しそうでした。

また、別の日には、私の目線にある手すりの所に自らぴょんと飛び乗ってきました。驚いて顔を近づけると、これまた嬉しそうに頭と頬を摺り寄せてきました。『おめえの目ではこんな風に見えるのか、なかなかいいなあ……』とこれまた思い込みの読心術。ただ、嬉しそうなのは間違いありません。私が抱きかかえて高いところに置いても、さっさと降りてしまうことが多いのですが、この日はなかなか降りようとしませんでした。自分で高い位置に飛び乗ったことがよかったのでしょうか……。

この後、ちょっと考えてみたのですが、子ども達に対する私たちの在り方にも同様のことが言えるのかもしれない。私達大人は、高い位置から子どもを見下ろし、一人一人の子どもの目線(何を見て、何を感じ、何を困っているか等)に気付かないまま接していることもあるように思います。子どもに寄り添い、目線を共有することが子どもにとっては喜びにつながるように感じました。

また、何かを分からせようとする場合、強引に引き上げようとして、子どもの実態と結びついていないこともあるようです。すると、子どもは早くその場から立ち去りたい気持ちが膨らみ、嫌悪感のみが残ってしまうのではないのでしょうか。自らの意志と力で高い位置まで駆け上がったとき、子ども達の充実感・達成感は満たされるのでしょうか。

猫とのかかわりから、私自身の大人として、特に教師としての在り方を振り返ってみた次第です。